

# 中国語、パソコン、ドラム、思ったらやる! 楽しく学び続けるから元気でいられます。

長く辛かった敗戦後の中国～モンゴルの逃避行。日本に引き揚げ、ぶつかった言葉の壁。その壁を糧に変え、通訳などの仕事を続けてきた横山さんの元気の秘訣を伺いました。



よこやま のりこ  
**横山 憲子さん**  
(中国語通訳案内士)



読書などはパソコンへ、  
右は中国からの引き上げ  
体験を綴った著書



**言葉が通じない疎外感。  
「なんでここに来たんだろ?」**

中国で仕事をしてきた親のもと昭和15年に生まれ迎えた敗戦。ソ連兵に怯え、月を見ながら砂漠をたどった逃避行。運良く援助を受けられて、やっと生活が落ち着いたらと思った頃、昭和28年に12歳で日本に引き揚げてきました。

でも子供の私にはその意味がわからず「なんでここに来たんだらう、中国に帰りたい」と何度思ったことか。言葉が通じない疎外感もありました。その時、学齢は小学校6年生ですが、まず入れられたのが1年生の教室。飛び級で学年を上げて中学へ。高校

へは2年遅れで入学。そして短大で学び幼稚園教諭資格も取りました。「女は勉強しなくともいい」という考え方が根強かった時代です。父のいな肩身の狭い暮らしの中、高校・短大の進学を反対する親戚もありましたが、資格を得て糧にしていくためにも、絶対に進学したかった。母も同じように思っただけでした。

**中国語を学び直し  
通訳案内士、法廷通訳も**

その後、縁あって結婚し、豊田に来ました。エレクトロニクス講師、数学塾などをする一方で、身に付いているはずの中国語を忘れていくことが寂しくて、悔しくて、中国語も習い始めました。仕事にできるよう、中国語検定も受け続けました。やがて国際センターや、中国人の国内移動の付き添い、バドミントンの国際試合の通訳、帰還した残留邦人の自立支援などにも携わってきました。帰還者支援では、厚生労働大臣から表彰していただきました。今は市

役所で、中国語関係のお仕事をさせてもらっています。裁判所の法廷通訳を始めたのは、傍聴で感じた「通訳の曖昧さ」から。事前勉強や聞き取る力が足りなくて誤訳する通訳者もいます。人生を左右するような局面で、これではいけないと思っただけです。言葉が通じない虚しさ、心細さは身にしみています。幼少から身につけた言語が日本に誰かのために必要なのは、本当に有り難いことです。

好きなことをして生きる価値があると思っただけです。音楽が好きで、ビートルズが大好き。ポール・マッカートニーの来日公演は東京まで観に行きました。ポールは本当にカッコよかったです! パソコンも初めは手こずりましたが今は何でもパソコンにという習慣になっています。

打楽器が好きで、あこがれのドラムを習い始めました。ビートルズの「Hey Jude」はゆつたりめだけど意外に難しい。「Can't Buy Me Love」を叫んでいると「無」になれるんですね。打楽器ってホント、気持ちいい!

中国のことわざ「活到老、学到老」があります。生きていく限り学び続けるという意味です。明日死んでもいいように、今日好きなことをするつもりで生きています。昭和15年生まれですからね、整体院や病院のお世話にもなっています。でも楽しく学び続ける。さあ、明日はドラムのレッスンの日です!

# まちなか PRESS

楽しい話題をここから発信!!

2021.1.1 vol.91

©まちなか PRESS 編集・発行 / 株式会社夢現 まちなか PRESS 毎月1日発行

株式会社夢現 M-SPACE MUGEN  
〒471-0027 豊田市富多町 4-25-5 〒471-0027 豊田市富多町 2-170 KITARA 4F  
TEL 0565-31-6977 FAX 0565-31-6982 TEL 0565-41-7150 FAX 0565-41-7113  
MAIL mugen@sun.ocn.ne.jp

新年あけまして  
おめでとうございます。



豊田のまちが  
元気で  
あり続けますよう。

令和三年正月